



2022・7・15(金)
縄瀬 保育園
池之上 俊江
NO. 9

育児担当制

すみれ0・1・2組の保育は、少人数の子どもを担当の保育者が責任もって見守る事で、より丁寧に関わる「質の高い」育児が可能となります。これを「**育児担当制**」と言います。いつもお世話をしてくれる大人が決まっている事で子どもの情緒が安定し、内面的な発達も支える事ができ、子どもも担当保育士を実の母親のように慕い、時にはわがママを言える関係性ができていきます。小さなすみれ組も自分の考えをしっかりとっており、それに寄り添い、子どもが納得いくまで待つ事や喜びを具体的に認める丁寧な育児行為は、大人への信頼に繋がります。私も以前0歳児担当を経験しましたが、園児が自分を慕う姿が愛おしく、その気持ちをよく覚えています。娘の園でも同じく1・2歳クラスが育児担当制で、担当をとっても慕っていました。2歳児の時、娘が好きな恐竜絵本を読み聞かせしていると、私の声と重なる様にすらすらと読み始めました。更に驚いたのはカタカナの難しい恐竜の名前を読み違えると「ケツアルコアトルスだよ。言えないの!」と訂正まで…。次の日、担当と話をすると1日で数回は読んでいた事が分かりました。丁寧な関わりが信頼から語彙力・言語的な発達へと繋がっていきます。「OO(担当の保育士)さん何回も読んでくれるよ」「OOさんは、服を選ぶ時、待っててくれるよ」と毎日のエピソードが楽しみでした。育児担当制は、子ども一人ひとりに合わせて待つ事、ゆっくり関わる時間がきちんと確保できるのです。私自身、待つ事やゆっくり関わる事は母親の役目だと理解はしていましたが、特に平日と余裕がない私は母として我が子へ関わる時間は少なかったです。わがママや主張に寄り添い認めてくれる担当は、娘と私にとって大きな存在でした。喜怒哀楽を繰り返すのが子ども本来の姿です。その土台は、身近な大人への安心感です。それがのちに3・4・5歳児と主体的に行動できる力となっていきます。担当制だからこそ、子ども達のあらゆるエピソードを語れます。更に丁寧な育児行為・言葉掛けを意識して今後も子ども達の安心できる場所、存在になりたいと思います。

園長にも甘えていいだね・・・

休み明けの登園で、お母さんとなかなか離れられず涙を流す3歳児の男の子。近くへ行き「私が抱っこしていい?」と尋ねると少し不機嫌そうでしたが、頷いてくれました。膝に座りわらべ歌や話をして約10分近く経ち「虫探し行ってみる?」と誘いますが「まだ。」と一言。その後も友だちの遊びをしばらく眺めていましたが、気持ちが落ち着いたのか好きな遊びへ走って行きました。数週間後も同じような光景を見かけました。声を掛けると、また園長なの! ?と言いたい様でしたが、素直に膝へ座ってくれました。しかし前回とは違い座って数分経つと「園長! もう大丈夫だよ。」と笑顔で遊び場へ走って行きました。数週間こんなに変わるのかと嬉しくなりました。3月まではお姉ちゃんと一緒に登園していましたが、卒園して4月から一人での登園や新しい教室と環境も変わり嬉しい思いや時には不安もあるでしょう。よく頑張っているなと子ども達の登園する姿を見ながら感じています。元気が出ない朝は、職員と一緒に空を眺めたり、膝に座って語り合ったりできる時間がある事で、気持ちを切り替えられる力が育っていきます。今回の彼のように時間が少しずつ短くなり、自分自身で次の行動を選択できるようになっていくのです。小さな経験がのちに大きな困難を乗り越えたり、相手を受け入れたり、共感する心へと成長していきます。

数日後、園庭で転んだ友だちに駆け寄り男の子の姿がありました。転んだ友だちは全身真っ黒で今にも泣きだしそうでしたが、彼が「立てる?」と声を掛け足の砂をはらってくれました。涙をこらえた友だちが立ち上がると、にっこり顔を見合わせ男の子が「痛いのお空にとんでいけ〜!」と空を指差しました。痛みを忘れた様に二人で笑い合っていました。互いを思いやり、信頼できる仲だからこそその光景です。嬉しさやたくましさを感じました。

何かと慌ただしい朝ですが、「数分の寄り添い」が子ども達の力となり遊びや日常に繋がっていきます。そんな朝の時間を大切にしたいと思っております。

母親の特権!!

育児や家事、何かあると「母親」の責任が問題視されますが、毎日家族の為に走り回り一息つく間もなく一日が過ぎていきます。「母は強し」の言葉のように、いつの間にか強くなっている気がします。命がけの出産も母親にしかできない事です。出産後、達成感と我が子に会えた喜びはいつまでも忘れたくないものです。生まれたての小さな体で、わずかな力を出しコクコクと母乳を飲む姿は、眺めているだけで愛おしくなります。年齢を重ねても「お母さんどこに行った?」と母を尋ねる回数は父親より多いのかなと思います。母親になる事で様々な責任や課題が課せられますが、母親の特権は多くあります。わがママを言って困らせる事も生まれた瞬間の愛おしさを思えば、仕方ないと寄り添う事ができます。子どもなりの頑張りを認める時間が必要です。休日は、絵本を読んだり絵描きをしたりと関わる時間が増える事で子ども達の「心のエネルギー」となっていきます。多忙な毎日ですが、母を求めてくれる時期を大切にしていきたいですね。